

シェイクスピアとの往還

日本シェイクスピア協会創立六〇周年記念論集



日本シェイクスピア協会〔編〕

10月22日
配本予定

四六判上製(予)296頁
予価4160円(本体3800円+税10%)
ISBN978-4-327-47237-5 C3098 NDC: 934

日本のシェイクスピア研究の最前線

1961年に創立され、今年で創立60年を迎える日本シェイクスピア協会の最新論文集です。ベテランから若手までの12名の寄稿者を迎え、シェイクスピアを中心とするエリザベス朝演劇や、シェイクスピアの日本での受容や翻案までを論じています。「還暦」を迎えた同協会は、シェイクスピアとの対話と往還を長年続けてきましたが、この新しい論集でも、丁寧なテキスト読解を堅持しながら、シェイクスピアとの「往還」の新しいかたちを提案しています。

〈编者紹介〉

日本シェイクスピア協会は、1929年に東京帝国大学教授市河三喜を会長、シェイクスピア全訳で知られる坪内逍遙を名誉会長として発足した第二次日本シェイクスピア協会を前身としています。日英友好をその大きな目的の一つとしていた第一次協会は、1930年代の政治情勢の緊迫によって活動にさまざまな支障が生じ、第二次世界大戦中は実質的な活動停止となりました。

現在の協会の活動は15年間の空白期間を経た1961年に始まりました。新協会は日本におけるシェイクスピア研究の促進を目的と定め、シェイクスピアとエリザベス朝演劇に関心をもつ全ての人々にその門戸を広げ、現在では、シェイクスピア時代の作品だけでなく、シェイクスピアからの翻訳、翻案などの研究も進めています。

○収録論文(執筆者の五十音順)

五十嵐博久——『尺には尺を』における権力とエクイティ

内丸 公平——シェイクスピアを教える夏目漱石——「マクベスの幽霊に就て」から「坪内博士と『ハムレット』」へ

河合祥一郎——シェイクスピア初期版本の話者表示(speech-prefix)

川野真樹子——二人の「オフィリア」——堀正旗「ハムレット現代に生きなば」(一九三〇)における女性像

佐野 隆弥——シェイクスピアを諷刺する——バルナツス劇と世紀転換期の諷刺文

篠崎 実——「嘆かわしい一幕」——「リチャード二世」検閲説をめぐって

杉浦 裕子——“Hark, who is't that knocks?”——「オセロー」四幕三場のノックの音についての考察

鶴田 学——イングランド中部地方から読み解く『ジョン王』

英 知明——ある詩人のファースト・フォリオ——一七世紀の旧蔵本

前原 澄子——「お気に召すまま」における修辭のパロディ

松田 幸子——「母とは呼べない、もはや墓場だ」——「マクベス」と死せるスコットランド

森 祐希子——植物誌・園芸書と「リチャード二世」の庭

〈類書〉

日本シェイクスピア協会編

『甦るシェイクスピア 没後四〇〇周年記念論集』
など研究社が5年ごとに刊行している論集

シェイクスピアとの往還 日本シェイクスピア協会創立六〇周年記念論集

予価4,160円(本体3,800円+税10%)

ISBN978-4-327-47237-5 C3098

申込数

書店名(印)

新刊申込書

冊

お名前

ご住所 〒

TEL

21.08